学校づくり・地域づくりに関わるすべての皆さんへの情報紙

きょうどう No.8

R7. 12月
津山教育事務所 生涯学習課
義務教育支援課

「人づくりまちづくり研修会②」を開催しました！

令和7年12月3日（水）に津山市中央公民館で、「人づくりまちづくり研修会②」を開催し、津山教育事務所管内の市町村の社会教育委員や社会教育行政職員から約40名の参加がありました。

【講演】「防災を通じた地域の絆づくり ～西日本豪雨災害から学んだこと～」

講演より

あの日、浸水した道を車で避難。事前の備えもなく、情報が少ない中で今思えば危険もあった。川辺地区の家屋はほぼ全壊。住民のほとんどが地域を離れざるを得なかった。

住民が集う場として被災3か月後に炊き出しを始めた。交流の場となった。支援物資の受け入れ、サロンの開催等、心の支援も大切にしてきた。地域の中で必要な情報を必要な時に得られるように20名で始めた地域LINEグループも、現在は600名を超えた。防災は地域の「つながり」が重要。

川辺復興プロジェクト　あるく
代表　槙原 聡美 氏

川辺復興プロジェクト あるく

平成30年西日本豪雨において、住んでいる岡山県真備町川辺地区のほぼ全ての家屋が浸水。再びこの地での生活を希望する人が「帰ってきてよかった」と思える地域にするため、被災住民が中心となって活動を開始。つながりづくりのサロンや安心して暮らすための地域防災など住民の心の復興の一役になっている。

子どもと家族の命を水害から守る「防災おやこ手帳」

「子どもたちに怖い思いをさせないで！」
「誰にも失う辛さを経験させたくない！」そんな思いをこめて、「あるく」は西日本豪雨災害の経験をもとに製作した防災手帳を作成されています。

【内容】川辺地区発祥の分散避難「マイ避難先」や避難行動のタイミング「避難スイッチ」、そして、何を持っていく？「持ち出しグッズ」など、これだけは知っておいてほしいことがわかりやすく掲載されています。

「あるく」HP

参加者からの声

- 地域ぐるみで助け合う防災の重要性を再確認できた。特に「命が助かるだけでは十分でない」という言葉が印象に残った。
- あまり必要と思っていなかった防災グッズの大切さが伝わってきた。近所の方とこれまで以上につながっておきたい。
- （地域の）LINEグループは素晴らしい取組。また、今まで思いもしなかったが、避難所にいる人の気持ちがわかった。
- 災害が少ないと変な自信を持っていたが、今日のお話をいただき家族と防災について話し合い、備えを進めたい。
- つい7年前に起きたことなのに他人事にしてしまっている自分を猛省。槙原先生の言葉が心に響いた。

☆被災支援の経験からの学び☆

〇フェーズフリーな防災対策
様々な人に思いを寄せる（意識を向ける）。

〇受援力を高める
支援が受けられる準備。具体的な助けを求められるよう。

〇自助は最強の共助
自分が備えることで、他の誰かを助けることにつながる。防災の常識は常に変化。情報収集は自助の第一歩！